（別紙4）　　平成　28　年度

# 1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業所番号 | 2172600559 | | |
| 法人名 | 株式会社　ナックス | | |
| 事業所名 | グループホーム　ぬくもりの家 | | |
| 所在地 | 岐阜県揖斐郡大野町大字稲富712－1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年11月30日 | 評価結果市町村受理日 | 平成29年2月3日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

| | |
|---|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2172600559-00&PrefCd=21&VersionCd=022 |

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|---|---|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人　ぎふ福祉サービス利用者センター　びーすけっと |
| 所在地 | 岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地　尾関ビル |
| 訪問調査日 | 平成28年12月22日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・いつでも庭が開放され、畑や花を見て一緒に育てることで利用者様に生き生きとした表情が見られます。利用者様と職員が気軽に話しができる雰囲気を大切にし、会話の中から要望を聞き取り、ケアに取入れています。施設内は、無機質なものは置かず、懐かしい和箪笥やミシン、火鉢、花々などを飾り歴史や季節を感じることができるよう工夫しています。年数が経つにつれ、看取りを希望されるご家族が増えてきましたので、主治医、看護師、介護職員がしっかり連携して最期の時まで精一杯支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「ぬくもりの家」は、”自分たちが年老いた時、自分らしく時間を過ごしたい、一緒に笑いあえる人と居たい、自然を感じてのんびりしたい” という、管理者のそんな想いから始まったグループホームである。事業所内には、馴染みある和箪笥やミシンが置かれ、利用者が、自宅に居る時と同じ雰囲気で暮らせるよう工夫している。勤続年数の長い職員が多く、利用者は安心して過ごし、管理者が目指してきた、温かくぬくもりのあるホームの暮らしを享受している。最期まで、ホームで暮らしたいと願う利用者と家族の思いに添いながら、医療関係者とホームが連携し、学習を重ね、看取り介護の実践にも取り組んでいる。

## Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| | 項　目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>（参考項目：23,24,25） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいの |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいの |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>（参考項目：18,38） | ○ | 1. 毎日ある |
| | | | 2. 数日に1回程度ある |
| | | | 3. たまにある |
| | | | 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>（参考項目：38） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>（参考項目：36,37） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>（参考項目：49） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>（参考項目：30,31） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>（参考項目：28） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |

| | 項　目 | 取り組みの成果<br>↓該当する項目に○印 | |
|---|---|---|---|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>（参考項目：9,10,19） | ○ | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| | | | 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>（参考項目：2,20） | | 1. ほぼ毎日のように |
| | | ○ | 2. 数日に1回程度 |
| | | | 3. たまに |
| | | | 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>（参考項目：4） | | 1. 大いに増えている |
| | | ○ | 2. 少しずつ増えている |
| | | | 3. あまり増えていない |
| | | | 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、活き活きと働けている<br>（参考項目：11,12） | ○ | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどできていない |

# 自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ.理念に基づく運営** | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員が常に意識できるように施設内に掲示している。また、毎月行っている職員全体会議において、運営理念を皆で読み上げ意識確認をし、実践できるようにしている。 | 理念は、地域に密着した暮らしのなかで「利用者の権利の尊重」「心おだやかな介護」「安全で信頼関係のある地域医療の連携」等を掲げている。理念は、誰もが見られるように、目に付きやすい場所に掲示し、職員は、日々、振り返りながら実践をしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 毎年夏休みに小中学生のボランティアを受け入れ認知症のケアを体験して、触れ合いをしている。地域の方が消防訓練に参加していただいたり、野菜を持ってきて下さったり、歌を教えに来ていただいたりと交流している。 | 地域住民や自治会とは良好な関係にあり、地域の清掃活動、防災訓練等の地域行事に参加している。家族会の行事には、住民が参加し交流をしている。小中学校の学生ボランティアを受け入れ、認知症高齢者の理解を深めるの場になっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方が、介護で困っていることや介護認定について相談に来られることがあり、丁寧に対応している。また、多数の民生員の方にも見学していただき、施設の取り組みをお伝えしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議には民生委員、行政の職員、他グループホームの管理者の方々に参加していただき、施設での取り組みや研修内容を発表している。また、他のグループホームでの活動を伺い互いに意見交換をしている。 | 運営推進会議は隔月に開催している。他の事業所の管理者も参加しており、会議の場で、互いの取り組み状況や、職員研修、学習会等の内容を、意見交換の議題にしている。行政からは、災害ハザードマップについての説明があり、それらを話し合い、運営に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 地域包括支援センター主催の会議に参加したり、事業所の取り組み、困難事例など相談にのっていただいている。また、利用者様の情報交換も行っている。 | 運営推進会議の場で、介護保険制度の動向などの説明を受けている。また、日頃から困難事例の相談や助言を得ている。行政主催の会議には積極的に参加し、協力関係の構築に努めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束、言葉で行動を制限しない介護について研修会を開き、職員全体で話し合いをし、理解を深めている。現在対象者はいないがやむを得ず身体を拘束をしなければいけない時は、同意を得て経過をみている。 | 職員は、日頃のケアの中で、何が身体拘束にあたるのかを想定した学習会を定期的に行い、拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉による拘束についても、常に職員間で意識し、利用者の言葉や行動を制限することのないよう努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 定期的に高齢者虐待防止法関連について研修を行い、理解するように努めている。職員がストレスを溜めないように管理者に相談できるような雰囲気を作るよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | これまで成年後見制度を利用された方や検討されるご家族もみえ、相談にのっている。職員研修等で理解を深めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時は時間を十分とり、丁寧に説明するように努めている。できるだけわかりやすく説明して、質問や疑問点の解消に努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者様の意見、要望は毎月の全体会議で上げて話合いをしケアに反映させている。また、ご家族の意見、要望は面会時に伺ったり意見書を提出してもらうなど工夫している。出された意見は運営推進会議で報告している。 | 家族の意見や要望を、電話や訪問時の際に問いかけたり、介護計画作成時には、会議への案内と共に、意見や要望の返送を依頼している。事業所の庭に咲いている花を、各居室に飾ってはどうかという、家族からの意見を実現させている。利用者の現状維持や、生きがいにつながる支援の要望が家族から出ている。 | 家族の要望を受け、利用者一人ひとりの状態を把握しながら、居室や共用の間の清掃等、役割を持って関わってもらい、利用者の生きがいと満足度の向上に繋げる事を検討している。その実践に期待したい。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日常の気づきや意見は毎月の管理者会議で代表者が話を聞く機会を設けている。行事や家族交流会、地域の方とのイベント、研修、環境整備など皆で意見を出しあい決定している。 | 管理者が同じシフトで現場に従事しており、日頃からケアについて、職員の意見や提案を聞き、迅速に改善につなげている。また、働きやすい職場環境の整備にも取り組み、できる限り要望を叶えている。職員間の人間関係も良好で、勤続年数の長い職員が多い。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 子育て中から年配の職員まで様々な年齢の方が働いているため、時間や希望休の配慮をしている。実績に合わせ昇給があり、各自責任と意欲を持って働けるように工夫している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 年14回の職員研修会を開催して、知識、技術を皆が高められるように機会を設けている。また、外部の研修にも積極的に参加したり、日々の介護の中で技術を磨くなど職員の質の向上に努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 施設職員連絡会の研修に参加し、他の施設職員と勉強する機会がある。また、研修発表を行うこともある。他の施設の運営推進会議に参加し、ネットワーク作りに努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居される前にじっくりと話を聞く機会を作り、困っていること、不安に思っていることを聞いている。入居されてからは、本人様の要望等を取り入れ、安心して生活していただけるようアセスメントを定期的に行っている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居される前に、施設内外、利用されている方の実際の生活の様子を見て頂いている。入居されるにあたり、要望、不安なことも聞き、入居後に支援できるようにしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人、ご家族の要望等現状で必要なことを話し合い、他のサービスも利用できるよう調整をしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者様は人生の先輩という認識を持ち、共に過ごしていけるように理解している。認知症についての勉強会を行い、利用者様が継続して行える事を活かした生活ができるように努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族には3ヶ月毎に近況報告を送付している。また、面会時にも現況を伝えている。ケアプラン担当者会議にも出席してもらい、一緒にケアプラン作りを行っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご家族などの面会時には、ゆっくりと話ができるようお菓子やお茶を出しくつろいでいただけるようにしている。近所のスーパーや喫茶店、公園等馴染みの場所に出掛けたり、年賀状を作成したりと関係が途切れないように支援している。 | 近隣に住んでいた利用者が多く、地域の行事に参加して、友人や知人に出会っている。また、職員は、公園や地域の店へ、利用者と一緒に買い物等に出かけ、馴染みの場所や人との関係継続を支援している。家族とは墓参りや理容院、喫茶店など、馴染みの場所に出かけている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 食事、おやつの時間などは、気の合った方と気兼ねなく楽しんでもらえるようにしている。行事等もほぼ全員の方に参加して頂いている。トラブルのないように利用者様同士の関係も気を付けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービスが終了してもいつでも相談事等に応じたり、経過等も尋ねている。次のサービスに支障のないよう必要な情報は提供している。 | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者様ひとりひとりの性格、習慣などをアセスメントし、情報を集め職員全員が情報共有している。また、ご本人からも直接話を伺い、希望を把握している。意思疎通が困難な方は、ご家族から話を聞いたり、日常の生活の様子から理解するようにしている。 | 事業所でとっている新聞から、興味のある記事を話題にしたり、趣味の話などを聞くなど、利用者と会話しながら、思いや意向を把握するよう努めている。また、利用者一人ひとりの暮らし方に優しく寄り添い、信頼関係を構築するよう心がけている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 今までの生活の様子、生活環境の様子などをご本人、ご家族から話を聞き、把握するように努め、支援に活用できるようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個々に介護記録を利用し、１日の様子、状態の変化等を記録している。職員間でひとりひとりの情報を共有できるようミーティングを行い、把握するよう努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 担当者会議をご本人、ご家族、担当者と行い、モニタリング、介護記録を参考に計画の作成をしている。ご家族には予め介護に対する意向書の記入をして頂き、介護に対する思い等を伺っている。 | 家族と利用者には、計画作成時に、会議参加を依頼して希望や意向を聴きとり、把握した内容を反映させた介護計画作りを行っている。介護記録を基に、担当職員、医師等の意見を加えて作成し、定期的にモニタリングを行い、柔軟に見直しを行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | モニタリング、個々の毎日の記録を行っている。毎朝のミーティング、全体会議で情報の共有をしている。気付いたこと、より良い介護の方法等も話し合い、介護計画の見直しの時に活用できるようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人、ご家族の状況、ニーズに対応できるよう職員が能力を十分に発揮できる職場作りをしている。（理容師による散髪、栄養士による栄養管理等） | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 小中学生のボランティアが来た時は、一緒に食事の用意をしたり、レクリエーションで楽しんでいる。地域の方とカラオケを楽しんだり、喫茶店、スーパーへの買い物に行ったりしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者様には希望でかかりつけ医の選択をして頂いている。施設の主治医は月2回の往診と月2回の看護師訪問によって健康管理をしている。24時間連携をして急変時等に迅速に対応できるようにしている。 | 契約時に、かかりつけ医についての事業所の方針を説明している。月2回の協力医による往診と、訪問看護により、利用者の健康管理を行っている。ほぼ全員が協力医を受診し、他の医療機関には家族が同行している。緊急時や家族の都合によっては、事業所が対応している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 体調不良の方、寝たきりの方を中心に看護師、介護職員が協力し支援している。往診、訪問看護時には立ち会い、適切な医療が受けられるよう支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時には介護サマリーを提供し、安心して治療できるようにしている。途中の治療経過、入院中の様子など、病院側、ご家族より情報を交換し、早期に受け入れができるようにしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所段階からおよその意向を聴き、実際に重度化や終末期を迎えた時には、医師、ご本人、ご家族と話し合いをしている。体調が変化した時には、医師、看護師、介護職員で話し合いをし、連携をしながら取り組んでいる。 | 入居時に、重度化や終末期についての事業所の指針を説明し、同意を得ている。利用者の状態変化時は早い段階で関係者が十分に話し合いを行い、方針を決定している。終末期は、家族の協力の下、医師と連携しながら看取り介護に取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時、事故発生時の対応について、施設内で研修を行い、慌てず適切な対応ができるようにしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署の立ち会いのもと年2回災害時訓練をして避難経路の確認をしている。災害時には近隣の方に協力して頂けるよう依頼している。今年度は土砂災害を想定した訓練を予定している。 | 年2回、消防署の協力の下、夜間想定を含めた災害訓練を実施し、近隣住民の協力も得ながら、連絡網、避難場所、器具の取り扱いなどを確認している。水害、地震についても、地域のハザードマップを基に話し合い、職員間で情報を共有している。地域と土砂災害の訓練も計画中である。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者様に丁寧な言葉で話しかけるようにしている。接遇研修を行ったり、職員同士常に認識するようにし、態度や言葉使いが適切でないときはその都度指導している。また、居室に入る時にはノックをするなどプライバシーに配慮している。 | 職員は、利用者一人ひとりのプライバシーを守り、人格を尊重する支援を常に意識し、ケアに取り組んでいる。また、前年度の目標達成に向けて、更に具体的に接遇研修で学びながら、馴れ合いによる言葉遣いの乱れはないか、対応は適切であるか等を、常に職員間で意識しあい、ケアに努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者様との会話の中で思いや希望を聞き、一方的にならないようにしている。活動する時には必ずご本人に意思の確認をするようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | レクリエーションや行事をする時は、ご本人の気持ちを確認して行っている。体調や気分に合わせて方法を変えたりして対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 起床時に整髪をして1日を気分良く過ごして頂けるようにしている。季節に合わせて、その方らしい服装ができるようにしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 畑の野菜を一緒に収穫したり、料理の下ごしらえを手伝ってもらったりして、作る楽しさや食べる楽しさを味わって頂けるようにしている。また、一緒に料理できるメニューを作り定期的に料理クラブを開催している。 | 利用者は、職員と共に、庭の畑で野菜を作り、食べる喜びを味わっている。調理中は、食欲をそそる匂いが漂い、利用者が食事を楽しみにしながら、できることを手伝っている。食事づくりの場面で、利用者のこれまでの経験を活かし、それぞれが役割を担うことで、生きがいに繋がるよう、働きかけ方法について、現在、模索中である。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 体調や病歴、年齢に応じて1日の必要カロリーや水分を確認している。食べ物の好みに合わせて食事の形態を変えたり、栄養が取れるようにしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後は担当者が確認して声をかけながら行っている。自力でできない方には職員が口腔ケアを行っている。また、希望者には歯科医の往診にも対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個々に排泄の声かけを行い、なるべくトイレでできるように支援している。必要な方にはポータブルトイレを設置して、安全に自立できるよう支援している。排泄の自立を継続できる方が増えている。 | 職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけと誘導を行い、トイレでの排泄が習慣になるよう支援している。昼夜共、同じ排泄支援に努めているが、夜間は、個々の状態に合わせ、ポータブルトイレ利用の場合もある。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 個々に排泄の記録を付けて確認している。便秘の時は食事や水分量を見直し、それでも改善されない時には主治医に相談して薬を出して頂いている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 週2回の入浴日を決めているが体調や気分がすぐれない時には別の日で対応している。入浴はゆっくり一人ひとり入って頂くため、時間は十分取るようにしている。 | 週2回の入浴を基本に支援を行っているが、季節や利用者の状態に合わせて対応を行っている。個浴でゆっくり楽しむ人、介助の職員と楽しく会話をしながら入浴する人等があり、それぞれの希望に沿いながら支援している。時には、季節に合わせ、バラの花びらや柚子湯など、入浴を楽しめるよう工夫をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々の生活や体力に合わせ就寝や昼寝をして頂いている。なかなか寝付けない方には、話を聞いたり、温かい飲み物を出したりして、穏やかな気持ちで眠れるよう対応している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬表を確認するよう努めている。体調が変化したり、改善した時は主治医に報告している。また、飲み忘れがないように声かけをしながら服用して頂いている。薬の管理は看護師が中心に行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々の趣味や生活歴を考え、折り紙、カラオケ、犬の世話などお好きな事をして頂いている。また、喫茶店や近所へ買い物に行き、気分転換できるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 喫茶店や買い物、散歩などに出掛けている。季節に合わせて花見やバラ公園、紅葉などを見に出掛けている。また、ご家族による外出支援ができるように担当者会議で提案している。 | 天候や利用者の健康状態に合わせ、近所の保育園まで散歩し、園庭で遊んでいる園児の様子を眺めることもある。希望者で買い物や、近所の催し物にも出掛けている。春の桜、秋の紅葉、近郊のバラ園等、恒例の外出が利用者の楽しみになっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自己管理ができる方は所持しており、希望の物を購入されている。管理できない方については、小口資金としてお預かりし、希望時に使用できるよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族への電話を希望された時は、職員が取り次ぎ支援している。また、携帯電話を持っている方もみえ、自由に家族と連絡を取っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有の空間は、和箪笥、古いミシン、花々などを飾り利用者様が快適に過ごせるような配置にしている。また、季節に合わせて一緒に飾り付けをしている。刺激を少なくし落ち着いて生活できるよう間接照明を利用したり、自然の光を入れている。 | 共有の空間は天井が高く、自然光が入り明るい。室内から戸外の人や車の往来を眺めることができる。広い庭があり、野菜を育てて食材に利用したり、果物の収穫や季節の花を楽しむことができる。大きなテーブルやゆったりした椅子、昔のミシンや和箪笥等、懐かしい家具を置き、利用者が安らげる工夫がある。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 利用者様の１日のペースに合わせて部屋で過ごされたり、フロアで皆さんと一緒に話をしたりテレビを観たりしている。また、ドリルや塗り絵、かるた等をして楽しく過ごされている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者様が居心地良く過ごせるよう、自宅にあった趣味の道具や写真を自由に持ち込まれ思い思いの部屋作りを支援している。また、家具の配置も一人ひとりに合わせ、希望者には畳の部屋も用意している。 | 各居室には、机が置かれ、利用者は学生気分で手紙や日記を書いたり、折り紙を折るなどしている。ベッド、ソファー、和式のタンスが備え付けられており、思い出の写真、小物等を利用者の思いのまま飾り、居心地よい居室になっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 室内はバリアフリーになっており、車椅子の方でも自由に移動ができる。部屋やトイレの扉を色分けして、覚えやすいように工夫している。 | | |